



国民の森林・国有林

林野庁
中部森林管理局

〒380-8575 長野市大字栗田715-5
☎050-3160-6513

<http://rinya.maff.go.jp/chubu/>

広報

中部の森林



御柱から張り出した「めどてこ」に鈴なりの氏子（上社）

国有林材、十六本が御柱に

三年前の見立てから始まった祭りが幕を閉じました

主な項目

- イラン・イスラム共和国より研修生が来局…………… P2
- 各地からのたより…………… P3
- シリーズ「森林官からの便り」…………… P5
- シリーズ「ご当地自慢」…………… P6

イラン・イスラム共和国の 研修生を受け入れ

【総務課】平成二十八年四月十一日十二日の二日間、独立行政法人国際協力機構の実施する「イラン国参加型森林・草地管理能力強化研修コース」の研修生六名が当局を訪れました。

この研修は、「イラン国で2010年から実施している「チャハールマール・バフティヤール州参加型森林草地管理プロジェクト」の現場での活動の持続性を高めることを目的とし、その研修の中の一環として、日本の森林行政組織体制、住民参加による森林保全管理への取り組みについて講義や現地視察を行いました。

一行は、イラン国の林野庁にあたる行政機関の職員で、リーダーはイラン国・自然資源流域管理局の局長（地方森林管理局局長に相当）アリ・モハンマデイモ



新島局長を表敬



説明に真剣に聞き入る研修生

ガダンさんです。

研修生は新島局長を表敬したのち、早速講義に移り、保全課松元課長からの国有林管理の手法についての説明を皮切りに、中部局の概要説明（組織、人員、予算、研修）等の説明を行いました。一日目の中部局の予定は午前中のみでしたが、研修生は説明に真剣に耳を傾け、予定時間を過ぎても質問が多く出され、昼食時間を短縮して午後は長野県林務部へ移動されました。

二日目は、北信署管内の大峯山国有林へ現地視察に出かけ、北信署担当者から境界、貸付地や共用林野、契約の状況など現地を視察しながら説明をしました。その後、北信森林管理署へ移動し川村署長から署の概要説明がありました。

研修生からの強い要望があり、予定に

はありませんでしたが事務室内の見学も行いました。車の配車表やパソコンのディスプレイの二台使い、机の配置など大変感心して見学されました。この日も午前中の予定でしたが、質問が途切れずお昼時間にずれ込むとともに、事務室の見学が昼食時間となつてしまい北信署の方々へ事務局よりお詫びがありました。

この研修後、引き続き研修が実施されたことですが、それらと併せて研修内容がイラン・イスラム共和国の森林行政の発展に活かされるよう願っているところです。

地元の山の木を活用 木質バイオマスで温熱利用！ バイオマス利用WG

【名古屋事務所】岐阜県森林技術開発普及コンソーシアム（以下、「コンソーシアム」という）バイオマス利用ワーキンググループ（以下、「ワーキンググループ」という）が四月二十二日、岐阜県郡上市「明宝温泉湯星館」において、平成二十八年度第一回セミナーを開催しました。

このコンソーシアムは「岐阜県の森林・林業・木材産業に関する県民からの技術的な相談に対応するとともに、産官学連携・海外連携による、共同研究・開発、交流・研修により新たな技術の開発

やその普及を図る」ことを目的として、関係する企業・団体等を会員として平成二十六年九月に設置されたものです。当日は「バイオマス利用」に関するワーキンググループに四十名余りの会員が集まり、名古屋事務所からも二名が参加しました。



講演・意見交換会の様子

このワーキンググループは、県内各地域で木質バイオマス利用の可能性を検討し、賦存する森林資源を有効活用することにより地域を活性化することを目的に進められています。

セミナーでは、ワーキンググループリーダーの(株)丸光イトウ代表取締役伊藤峰由氏から開催の挨拶があったのち、木質バイオマスボイラー等の施設見学を行いました。見学施設である「名宝温泉湯星館」は木質バイオマス利用施設等整備加速化事業エネルギー導入事業により、

市面積の 9 割を占める森林資源を有効活用して、間伐材の原木・薪・チップ等の利用拡大に伴う副業型林業による「地域ビジネスモデル」を促進し、郡上市が目指す木質バイオマスエネルギーによる地産地消システムの普及モデルとして、平成二十六年年度に木質ボイラーを導入・平成二十七年五月二十八日に稼働を開始しました。



木質バイオマスボイラー見学

この木質ボイラーは 400 キロワット級以下のボイラーで、郡上市産材 100% を燃料として使用しており、薪使用量 283 トン/年（原木換算 336 立方メートル）、チップ使用量 409 トン/年（原木換算 528 立方メートル）の年間 864 立方メートルの郡上市産の原木が使用されています。原料のチップについては金山チップセンター・薪に

ついては平成二十二年度郡上市過疎地域自立促進事業の実証事業として始められた明宝山里研究会などから供給されています。



チップサイロ見学

講演では三菱UFJリサーチ&コンサル(株)主任研究員相川高信氏から「バイオマス利用における全国の動向と岐阜県に必要な取り組み」の講演があり、相川氏からは、バイオマス利用に必要な取り組みとして、コージェネーターの育成や実証事業での検証、バイオマスの人材育成などの必要性がまとめとして挙げられています。

今年度も引き続き、このワーキンググループを通じ岐阜県内の身近な森林資源を活用し地域の活性化を目指した取り組みが進められていくこととなりました。地域毎の特色を生かして可能性を具現化してゆく必要があります。

各地からのたより

「式年造営御柱大祭」

国有林材が御柱に

「南信署」数えて七年に一度の諏訪大社（上社、下社）の御柱大祭が四月から開幕しました。

御柱大祭は千二百年以上も昔から行われていると言われる全国に知られる祭事であり、柱を山から里へと曳き出す「山出し」と、神社までの道中を曳き、柱を各神殿の四隅に建てる「里曳き」が行われます。

この祭りに使用される柱は「御柱」と呼ばれ、古くから相当太いモミとされてきましたが、国有林では用材の確保が難しく、今回の上社・下社の祭りで使用された十六本については、地域からの要請を受け、いずれも当署管内の国有林から供給しました。



山出しを待つ御柱（下社）



木落坂を豪快に滑り落ちる御柱（下社）

山出しは、御柱用材のモミの大木を氏子が各社まで引きずりながら曳航するものですが、なんとと言っても最大の見せ場は、急坂を移動させる「木落し」です。上社は四月二日から四日、下社は四月八日から十日に行われ、氏子に乗せた御柱が豪快に滑り落ちると、観衆からは大きな歓声と拍手が湧き起こっていました。また、五月に行われた「里曳き」において有名なのは「建御柱」ですが、各社社で執り行われ、「山のモミが里へくだりて神となり」三年前の御柱の見立てから始まった祭りが幕を閉じました。祭りには、二百万人を超えたともいわれる人出とともに、「国有林産の御柱材」と様々なメディアで報道されたことから、地域とのつながりを一層深め、今後とも国有林としての役割を果たしていくことが必要と感じました。

多くの方が楽しめるように 赤沢自然休養林の遊歩道整備

「木曾署」四月十九日、平成二十八年度の赤沢自然休養林の開園を四月二十九日に控え、長野林業土木協会木曾支部、赤沢溪谷を美しくする保護管理協議会などのボランティアと木曾森林管理署職員合わせて約六十名が参加し、遊歩道の整備と木曾森林ふれあい推進センターが企画するパズルラリー箱の設置作業を行いました。

赤沢自然休養林は、昭和四十四年に全国初の自然休養林に指定され、年間10万人を越える観光客が訪れる全国でも有数の森林浴スポットであり、森林浴発祥の地です。森林鉄道の乗車や手軽に楽しめる森林散策などが大きな魅力となっています。

当日は、自然休養林内にある八コースの遊歩道の中で、天然ヒノキの成長が見応えがあると人気の「冷沢コース」約七〇〇mの整備を行いました。このコースは、木製の階段が設置されています



丸太で小段を設ける
作業に汗を流す参加者

が、階段の段差が高い箇所があるため、安全に快適に散策を楽しめるよう、階段と階段の間に丸太で小段を設け段差を緩和しました。また、ヒノキの根が地表に出ている箇所が見えることから、これらの保護と散策時の足への負担を軽減するため、ヒノキチップの敷き詰めも併せて行いました。森林鉄道の終点である丸山渡停車場から作業箇所まで、丸太やチップ材の運搬を何往復もするなど大変な作業でした。最後に、NPO法人「木曾ひのき」の森副理事長より「この作業により、子供からお年寄りまで歩きやすくなり、多くの家族連れに楽しんでいただくことができるようになった」と、感謝の挨拶をいただき、作業を終了しました。



「総務課」局総務課では、田中安全衛生係長の発案により4月から「中庭ラジオ体操」を始めました。

総務課の職員が中心となり、中庭の通路に一列に並んでラジオ体操をしています。

音楽に合わせて、普段デスクワークでは使わない筋肉を気持ちよと感じる程度まで動かせば、血液循環がよくなり神経の働きも活性化します。

このラジオ体操を習慣化させること

で、体の調子を整え、免疫力を高めることにより仕事に集中できる状態にもなります。一人でも多くの職員の参加を促すため、「一日のはじまりはラジオ体操から」のスローガン旗を持って、中庭に出ています。

実際に中庭に出ると、庁舎の廊下で体操する各課の皆さんと向き合う形になり、その姿を見て「今日も仕事がんばろう」という気持ちになります。

また、各署等でもラジオ体操が行われていると思うと、繋がっている気がして元気になります。

これからもラジオ体操で体も脳も起こして、朝から気持ちよく仕事をし、病いやけがを予防しましょう！

最後に、研修で来局していた新規採用者の皆さんも自主的に飛び入り参加で体



新緑の中気持ちよくラジオ体操中



研修中の新規採用者も飛び入り

操し、よい思い出になりました。各現場でも元気よく体操されることを願っています。

総務課 課長補佐 (福利厚生)

行事・会議等の予定

- ◎「木曾悠久の森」地域振興部会
6月2～3日 木曾署管内
- ◎大臣官房合同監査 (会計実地監査)
6月7～10日 中部局
- ◎造林担当者会議
6月8日～9日 中部局
- ◎森林管理局次長等打合せ
6月9～10日 林野庁
- ◎森林計画担当者会議
6月9日～10日 中部局
- ◎「木曾悠久の森」資源利用部会
6月16日 中部局
- ◎事業担当課長会議
6月23日～24日 林野庁



「北信森林管理署戸隠森林事務所」

木内 重明 地域統括森林官

戸隠森林事務所は、戸隠・鬼無里・飯綱高原から保科山・米子山・高山までの、約一四、〇〇〇畝の国有林と小川村、千曲市及び高山村に約六二〇畝の官行造林を管轄しています。

戸隠森林事務所がある戸隠は、長野市北部の標高一、〇〇〇メートル、五〇〇メートルに広がる高原で、周辺を「北信五岳」にも名を連ねる戸隠山、飯縄山、黒姫山に接しています。

この地域は、日本海側気候、内陸性の気候、亜高山帯気候など、さまざまな気候帯やそれぞれの分布域の植物が見られるほか、トガクシシヨウマ、トガクシデ



戸隠山の遠望



「やまぼうし自然学校」の
スノーシュートレッキング

ンダ等の固有種も多い地域です。また、古くから戸隠神社を中心とする信仰が盛んで多くの参拝客が訪れています。また、その森林のほとんどが国有林であることに加え、山岳景観や文化的景観が優れていることから上信越高原国立公園に指定されていましたが、二〇一五年六月に全国で三二番目の妙高戸隠連山国立公園として分離独立しました。

戸隠高原は野鳥の宝庫としても知られ、当国有林内に所在する戸隠森林植物園にはそれらを求め多くの野鳥観察者やカメラマンが訪れます。また、冬期間にはスノーシュートレッキングやクロスカントリーで植物園付近を散策する人たちもたくさん訪れます。

当事務所の一年は、この植物園の除雪から始まります。例年歩道上の残雪は二m近くあり除雪に苦労していますが、今年は暖冬で雪が少なく、雪解けも早かったことから例年に比べ容易に行うことが出来ました。

昭和四十八年より毎年四月に行われている地元中学生による雪上での巣箱掛け

も、雪のない中での作業となりました。また、今年は例年より半月早くミズバシヨウやリュウキンカが咲き始め、ボランティアによる木道のグリーンロープ張り等の作業を行い開園に備えました。



地元中学生による巣箱掛け

開園期間中は古くなった木道のメンテナンスや草刈り、植物保護のためのパトロールなど、きめ細かな管理を行います。

季節は駆け足で春から夏、夏から秋へ移り、そして十一月には初雪が降り冬を迎えます。わずかなグリーンシーズンの間に造林・生産・管理事業など様々な業務をこなさなければなりません。また山岳関係者で実施する登山道の点検など、



植物園内のミズバシヨウ



ガールスカウトによる下刈り作業

登山の機会が多いこともこの事務所の特徴です。

このように、戸隠森林事務所では年間を通じ豊かな自然の中で季節の移り変わりを肌で感じ、歴史ある戸隠神社の伝統文化にも触れながら、また地域とも密接に関わりながら仕事をしています。



戸隠神社 七年に一度の式年大祭



【野尻の宿の七曲り】

宿場町は外敵からの侵入を防ぐために、柵形といわれる鍵の手に道をつくっているところが多いのですが、野尻宿はカーブを曲がるとまたカーブの繰り返しという「七曲がり」と呼ばれています。

木曾路では奈良井について街並みの長い宿場であり、曲がった数を数えながら歩いてみてはいかがでしょう。

今の宿場の家並みは寛政三年（1791年）と文政七年（1824年）明治二十七年（1894年）に大火があり、比較的新しい家が並んでいます。高札場の跡には石垣が残っており、現在はその上には民家が建っています。石垣のそばには南無法蓮華経の碑があり、その台石はイボ石と呼ばれ、この石に触るとイボがとれると言われています。

【妙覚寺】

宿場の山側にある妙覚寺は、天台宗であったと言われていますが、現在は臨済宗妙心寺派で享保十一年（1727年）に建てられたものです。



高札場の跡

庭の小さな石室にある石仏は

千手観音の様ですが、左手に十字架のようなものを捧げているところから、マリア観音と呼ばれています。



マリア観音

【覚明様】

須佐男神社の参道脇に覚明堂は建っています。覚明は、この地で修業をしました。ある日覚明が「御嶽山を開山することができれば、再び帰ってくることもないため、お礼の印としてこれを受けから受取ってください」と言つて竹筒のお守りを渡し、「若しこのお守りを拝戴し無事出産が叶わなかったならば、このお守りを木曾川へ投棄してください」と言いのこし野尻を後にしたと伝えられたことから、「安産」の評判を伝え聞いて拝戴を行う者が多くなつたと言われています。後に安産講という御嶽講が信徒たちによって組織されました。覚明堂の裏に



覚明堂

は、霊神碑が数多くみられ、パワースポットを感じさせる神秘的な場所です。

また、須佐男神社の社叢は村指定の天然記念物であり、参道付近はモリアオガエルの生息地でもあります。産卵時期は大変貴重で、ソフトボールサイズの白い泡が木陰の中で見え隠れしています。

【阿寺の渓谷と森林】



モリアオガエルの卵

阿寺の清流は、どんなに雨が降っても濁ることがないと言われています。エメラルドグリーンの清流の源は、顔を洗うだけで美肌になるといふ伝説の湧水もあり、「美顔水」と言われています。

皇室の財産であった御料林時代の明治二十二年（1889年）に木曾支所阿寺伐木事業所を設け、最も早く大正十二年



阿寺渓谷

（1923年）野尻森林鉄道が引かれましたが、森林鉄道は当時の面影を残し昭和四十一年（1966年）六十余年の歴史に幕を下ろしました。

渓谷内には広大な木曾ヒノキの原生林が残り隣接の赤沢国有林とならんで木曾谷中でも指折りの美林として凜とした姿を残しています。

秋の紅葉も美しく、特にベニマンサクの真紅の紅葉は素晴らしく、清流との景観は心を癒してくれます。まさに、「阿寺渓谷」は三大美「美林」・「美顔水」・「美心」と渓谷の美を満喫し、訪れた人を楽ませてくれます。



今も残る森林鉄道跡

◆アクセス

【自家用車】中央自動車道中津川ICより国道19号線経由で約1時間。

【公共交通機関】JR中央線野尻駅下車。

◆お問い合わせ

長野県木曾郡大桑村観光協会
TEL 0264-5514566